

01	名古屋	松栄小学校	ナカジマ ナツキ ----- 名前 仲嶋 菜月
分科会番号	2	分科会名	外国語教育

話す内容を充実させ、より良い発表を目指そうとする児童の育成

1 研究のねらい

(1) 児童の実態と課題

本学年（6年生）の児童は、これまで外国語活動や外国語科の学習において、チャンツやゲーム、やり取り、発表など様々な活動に取り組んできた。その結果、相手に伝わる声量や視線、話す速さといった話し方を意識して発表する姿が見られるようになった。

しかし、最初の単元の振り返りでは、自身の成長を実感している記述が見られた一方で、「もっと詳しく伝えられたら楽しそう」という記述が見られた。そこで、「発表した内容は良かったですか」と尋ねると、「良かった」「まあまあ良かった」と回答した児童は59%であった。続けて、「どうしたら、より良い発表になるとおもいますか」と問い掛けた。すると、「AETの出身地や好みを踏まえて内容を考えたい」、「自分の考えや理由を詳しく伝えたい」、「話の流れを工夫して相手に伝えたい」などの意見が挙がった。

このことから、児童は話し方だけでなく、話す内容を充実させたいと考えていることが分かった。そこで私は、児童が話す内容を充実させ、より良い発表を目指すことができるよう研究を進めることとした。

(2) 目指す児童像

外国語科学習指導要領の『話すこと〔発表〕』では、目的や場面、状況を意識しながら、自分の考えや気持ちなどを伝えることや、伝える事項が複数あるとき、複数あるものの順番を決めたり、選んだりすることが求められている。

そこで本研究では、目的や場面、状況を意識しながら、話す内容を詳しくしたり、話す順番を工夫したりする活動を通して、話す内容を充実させたより良い発表を目指そうとする児童を育成していく。

2 研究の方法

(1) 対象児童 6年生 150名

(2) 研究の手立て

手立て①…なりきりミッション

毎単元、ある職業の人物になりきり、与えられたミッションを達成するために発表する活動を行う。この活動を通して、どのような目的や場面、状況で伝えるかを意識させる。

手立て②…目標シートの共有

話す内容が充実しているより良い発表とはどのような発表なのかを示す目標シートを、児童と共有する活動を行う。この活動を通して、目的や場面、状況への意識をもたせたり、話す内容や話す順番をどのようにするとよいか、具体的に捉えさせたりする。

手立て③…Think and Talk

仲間と話す内容を伝え合い、話す内容についてともに考える活動を行う。この活動を通して、さらに話す内容を詳しくしたり、話す順番を考え直したりして、話す内容が充実しているより良い発表を目指すことができるようにする。

(3) 年間実践計画【資料①】

単元名	なりきる職業	ミッション
Unit 2【実践1】(5月) My Daily Schedule	 YouTuber	視聴者（クラスメイトやAET）に、視聴者が『いいね!』と思う「My Routine」を紹介する。
Unit 3 My Weekend	 インフルエンサー	視聴者（クラスメイトやAET）に、「My Summer Vacation Vlog」を発信する。
Unit 4 Let's see the world.	 旅行会社のCEO	AETに、AETが「行きたい!」と思う魅力的な旅行プランを企画し提案する。
Unit 5【実践2】(11月) Where is it from?	 商品開発者	AETに、AETが「食べたい!」と思うオリジナル弁当を企画し提案する。
Unit 6 Save the animals	 動物の飼育員	全校児童に、生き物を守るためにできることを呼び掛ける。
Unit 7 My Best Memory	 エッセイスト	読者（クラスメイトやAET）に、小学校生活の思い出を伝える。
Unit 8 My Future, My Dream	 子役タレント	観客（クラスメイトやAET）に、将来したいことや夢などを堂々と伝える。
【年間実践計画】		資料①

3 実践の内容

実践1 Unit2 My Daily Schedule

(1) 実践のねらい

You Tuber になりきって自分の習慣を紹介する活動を通して、日常生活の習慣を表す英語表現を定着させるとともに、視聴者から「いいね!」をもらうための話す内容や話す順番を考えながら、クラスメイトやAETに自分の習慣を詳しく紹介することができるようにする。

(2) 実践の様子

① 手立て①の様子

本単元では、『You Tuber になりきり、自分の習慣を視聴者（クラスメイトやAET）に紹介する』という設定で活動を行った。まず、「You Tuber に挑戦してみない?」と投げ掛け、朝・夜・休日の習慣の中から一つを選んで発表することを伝えた。すると、「そういう動画、見たことある!」といった反応が見られ、児童は意欲的に活動に取り組み始めた。また、ミッションを「視聴者から『いいね!』をもらうこと」と設定すると、「詳しく伝えなくちゃ」「意外なことを紹介したい」などの発言が聞かれた。自分の習慣を書き出す活動では、多くの表現を書き連ねながら内容を工夫しようとする姿が見られた【資料②】。目的や場面、状況を意識しながら、より詳しく伝わる内容を考えようとする様子から、相手意識をもって表現を選択しようとする児童の姿がうかがえた。



【表現をたくさん書き出したメモ】資料②

② 手立て②の様子

話す内容を考える際に、①相手に寄り添っているか、②詳しく伝えているか、③内容が整理されているかの三つの観点を示した目標シートを共有した【資料③】。児童は目標シートを参考にしながら、自分の習慣をより詳しく伝えようとした【資料④】。

一方で、「順番を工夫するとはどういうことか分からない」との声も聞かれ、三つの観点的意味を理解していない児童もいた。

③ 手立て③の様子

児童はペアで発表内容を伝え合い、互いに評価し合った。「もっと詳しく説明した方が良さ」「習慣を行う順番で話した方が分かりやすい」などの意見が出され、話す内容を考え直す姿が見られた。

また、「その言い方、まねしてもいい？」という発言もあり、仲間の表現から学びを得て話す内容を考え直していた【資料⑤】。

④ 発表の様子

児童は、手立て①～③を経て、話す内容を充実させ、より良い発表をすることができた【資料⑥】。

視聴者（クラスメイトや AET）からは、「ギター弾けるの？知らなかった！」や「私も犬好きだよ」という感想とともに『いいね！』をもらうことができた。

(3) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 「視聴者から『いいね！』をもらう」という明確な目的を設定したことで、児童が目的や場面、状況を意識しながら話す内容を考えることができた。
- 目標シートを共有したことで、児童が目的や場面、状況を意識しながら、話す内容を詳しくしたり、話す順番を変えたりして、話す内容を充実させている姿が見られた。
- Think and Talk で仲間と伝え合い、評価し合う活動を取り入れたことで、より良い発表になるように試行錯誤する姿が見られた。
- 目標シートに示した言葉の意味が児童にとって分かりにくく、三つの観点を十分に理解した上で学習を進めることが難しい児童の姿が見られた。
- 仲間からの評価が記号のみであったため、改善点を具体的に把握しにくく、自分で課題を見付ける必要があった。
- △の評価を受けて意欲を低下させる児童も見られたため、互いに助言し合う活動や、前向きに評価を受け止められる評価方法の工夫が必要であった。

4 【話す内容を考える時】

① 寄り添っている度	… ⑥ 視聴者が「意外！」「へえ～」と思うような情報がある
② 詳しい度	… ⑦ これまでに学習した表現(Unit 2 は含めない)を加えている
③ 内容が整理されている度	… ⑧ 視聴者の反応を想像しながら、話す内容・順番を考えている

【児童と共有した目標シート】 資料③

【児童が、目標シートを参考にして考えた話す内容】 資料④

I sometimes play the guitar at 4 p.m.
 I never play the piano. ① 寄り添っている度
→ 意外な情報
 I never walk my dog.
 I like dogs. ② 詳しい度
→ 既習表現を追加
 I always brush my teeth at 9 p.m.

＜目標シートを参考に考えた話す内容を、ペアで発表する＞

① I go to the park.
Then, I always walk my dog.

② I never walk my dog.
I like dogs.

③ 自分の考えを入れるのいいね！
その言い方、まねしてもいい？

④ 僕も “Then” みたいな言葉を使いたい。

⑤ I go to the park.
Then, I always walk my dog.

⑥ I never walk my dog.
I like dogs.

⑦ 自分の考えを入れるのいいね！
その言い方、まねしてもいい？

⑧ 僕も “Then” みたいな言葉を使いたい。

＜話す内容を考え直す＞

I never walk my dog.
But, I like dogs.

I like dogs.
I always walk my dog.

【Think and Talkでの子どもたちのやり取り】 資料⑤

**③ 内容が整理されている度
→ 時系列になった**

(資料を見せながら)

① This is my night routine.
 ② I sometimes play the guitar at 4 p.m.
 ③ I never walk my dog.
 ④ But, I like dogs.
 I want a dog. ② 詳しい度
→ さらに既習表現を追加
 ⑤ I usually watch movies on YouTube at 8 p.m.
 ⑥ I always brush my teeth at 9 p.m.
 ⑦ Thank you for listening.

【仲間から学びを得て考え直した、話す内容(資料④からの変更)】 資料⑥

実践2 Unit5 Where is it from?

(1) 手立ての改善

実践1の課題を踏まえ、多くの児童が理解できるように、目標シートをイラスト化した。

また、仲間同士が評価だけでなく助言を行うことや、自分で達成目標を設定することができるよう改善した。

(2) 実践のねらい

商品開発者として、AET にオリジナル弁当を提案する活動を通して、食材の産地や栄養素、特長を表す語句や表現を活用するとともに、AET に『食べたい!』と思ってもらうために、相手の好みや思いを踏まえながら、話す内容を詳しくしたり、話す順番を工夫したりして、AET に自分のお弁当について紹介することができるようにする。

(3) 実践の様子

① 手立て①の様子

本單元では、『商品開発者として、AET にオリジナル弁当を提案する』という設定で活動を行った。まず、「商品開発者としてAET が食べたくなるような弁当を考えてみよう」と投げ掛けると、「これ私の夢の職業!」「この職業の人、テレビで観たことがあるよ」といった反応が見られ、児童は意欲的に活動に取り組み始めた。また、ミッションを『AET に「食べたい!」と思ってもらうこと』と設定し、「AET に食べたいと思ってもらうにはどうしたらいいかな」と問い掛けた。すると、「AET の好きな食べ物を知りたい」「僕のお母さんは国産にこだわっているけど、AET はどうだろう」「見た目が良い方がいいんじゃない?」「元気付けるためだから栄養バランスも考えないとね」「思わず食べたくなるような弁当の名前を考えたい」などの発言が聞かれた。弁当の内容を考える活動では、相手の好みや思いを想像しながら、提案内容を工夫しようとする姿が見られた。AET に『食べたい!』と思ってもらうという目的を意識しながら、相手の立場に立って内容を考えて工夫したりする姿から、相手意識をもって内容や表現を工夫しようとする様子が見られた。

② 手立て②の様子

なりきりミッションの後、分かりやすさを追究したイラスト目標シートを共有した【資料⑦】。目標シートでは、①思いやり度、②詳しい度、③整理されている度の三つの観点を示した。①思いやり度はAET の好みを取り入れているか、②詳しい度は食材の生産地や栄養素を伝えているか、③整理されている度は話す順番を考え、内容にまとまりがあるかを表している。目標シートを提示すると、「分かりやすい!」という声が聞かれ、それぞれのイラストが表す意味についても、多くの児童がすぐに答えることができた。



ある児童から、「全ての食材の産地を伝えた方がいいですか」と質問された。他の児童にどう思うかを問い掛けると、「詳しい度は上がると思う」「でも、産地を全部伝えても食べたい気持ちになるかな」「弁当の推しポイントを伝えた方がいいと思う」などの意見が出た。学級全体の話し合いを通して、児童はAET に『食べたい!』と思ってもらうという目的を意識しながら、どのような内容を伝えるとよいのかを考えていた。

弁当の内容を考える活動では、「栄養バランスの良さを詳しく伝えたい」「イタリア、日本、韓国の料理が好きと言っていたから、『Traveling Bento(トラベリング弁当)』という名前にして、好きな食べ物順に紹介したい」など、目的や場面、状況を意識しながら、話す内容を詳しくしたり、話す順番を考えたりして、より良い発表を目指そうとする児童の姿が見られた。

③ 手立て③の様子

前回の課題を踏まえ、仲間から評価だけでなく助言ももらえるようにするとともに、目標シートの達成度について、ハートをいくつ獲得したいかという目標値を設定させた。【資料⑧】

児童は、目標シートの三つの観点を基にしながら、話す内容や話す順番について具体的に助言し合っていた【資料⑨】【資料⑩】。

また、仲間の助言を受けて内容を見直したり、より伝わる発表になるよう工夫したりする姿も見られた。

④ 発表の様子

児童は、手立て①～③を経て、AETの好みや弁当のテーマに沿った文章を付け加えたり、話す順番を考え直したりして、話す内容を充実させることができた【資料⑪】。

発表を聞いた AET から

は、「I like broccoli. And I want to get power. I want to eat this bento.」と返事もらい、児童はとてもうれしそうな表情を見せた。

(4) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- イラスト化した目標シートを共有したことで、児童が目標の内容を理解し、話す内容を詳しくしたり、話す順番を変えたりして工夫する姿が見られた。
- 目標値を設定したことで、達成度と比較しながら自分や仲間の課題に気づきやすくなり、目標達成に向けて活発に意見を交わす姿が見られた。
- 達成度を◎、○、△ではなく、ハートで表したことで、児童は前向きに目標達成を目指しながら学習に取り組むことができた。

自分の目標値		仲間からの評価		仲間からの助言
	思いやり度(3)	詳しい度(2)	整理されている(2)	アドバイス
1回目	♡♡♡	♡♡♡	♡♡	スライスを「broccoli」が大好き、見物、 「broccoli」は「kato」～ 「broccoli」は「kato」～
2回目	♡♡♡	♡♡♡	♡♡	「broccoli」は「kato」～ 「broccoli」は「kato」～
3回目	♡♡♡	♡♡♡	♡♡♡	言う順番が整理されていた 栄養素も入っているって良かった

【Think and Talkで、仲間への評価と助言を書いたメモ】

資料⑧



【目標シートを見ながら評価、助言する様子】

資料⑨

＜目標シートを参考に考えた話す内容を、ペアで発表する＞

- ① なんで、『Protein Bento(プロテイン弁当)』っていう名前にしたの？
- ② たんぱく質がたっぷり入っていて、マッチョみたいになれそうだから。
- ③ それなら産地よりも栄養素を詳しく伝えた方がいいんじゃない？
- ④ 栄養素を付け加えようかな。『整理されている度』はハート二つかな。どうして？
- ⑤ 栄養素を話した後に、「You can get power.」って言った方が、説得力がアップすると思う。弁当の名前は、『Muscle Bento(マッスル弁当)』も良いと思ったよ。

＜仲間から評価、助言を受けて、話す内容を考え直す＞

【評価、助言の場面で、活発に意見を交わす様子】

資料⑩

＜Think and Talk 前、一人で考えた話す内容＞

★弁当の名前紹介
1 This is my bento.
2 My bento is [protein] bento.
★弁当の中身の紹介
3 rice, dori, chicken, tempura, broccoli, tomato.
4 potato salad and boiled egg.
★生産地・地域・栄養素
5 The broccoli is from Aichi.
6 Aichi is in Chubu area.
7 The broccoli is in green group.
8 You can get power.

＜Think and Talk 後、付け加えた話す内容＞

7 The boiled egg is from Ibaraki.
8 Ibaraki is in Kanto area.
9 The boiled egg is in red group.
10 Yela likes broccoli.
11 You can get power.
12 AET's favorite
13 I like broccoli.
14 I want to get power.
15 I want to eat this bento.

【Think and Talkを通して充実した話す内容】

資料⑪

- 話す内容の充実に重点を置いたため、話す練習の時間が不足し、自信をもって話すことが難しい児童の姿が見られた。
- 話す内容は充実したが、言い間違えたり、資料提示のタイミングを誤ったりする様子が見られた。

4 研究のまとめ

(1) 結果と考案

実践を経て、5月に行った意識調査を12月にも行った。「発表した内容は良かったですか」という質問に対して、「良かった」「まあまあ良かった」と回答した児童は96%となり、5月と比べて37%増加した【資料⑫】。

「手立て①なりきりミッション」では、目的や場面、状況を明確にしたことで、児童は相手意識をもって話す内容を考えることができた。

また、「手立て②目標シートの共有」を行ったことで、話す内容を詳しくしたり、話す順番を変えたりして工夫する姿が見られた。さらに、「手立て③Think and Talk」では、仲間と伝え合い、評価、助言し合う活動を通して、話す内容を付け加えたり、表現を見直したり、話す順番を考え直したりしながら、話す内容が充実したより良い発表を目指して試行錯誤することができた。

実践前、「もっと詳しく伝えられたら楽しそう」と言っていた児童に、実践後の思いを尋ねた。児童は、「詳しく話せて楽しかった」「自分が考えた話す内容がAETや仲間に伝えられてうれしかった」と振り返った。また、「前は言いたいことがあっても言えなかった。でも、今は目標シートを見たら伝え方が分かって、仲間と話し合ったら言葉も増えた」と話しており、自分の成長を実感している様子が見られた。以上のことから、手立て①～③は、私の目指す児童像に迫るために有効であった。目的や場面、状況を意識して話す内容を考えたり、仲間と学び合ったりする活動を取り入れたことで、児童は話す内容が充実させ、より良い発表を目指すことができるようになったと考える。

(2) 今後に向けて

児童に、今後の目標について尋ねた。すると、「もっと自信をもって話すこと」と答えた。本実践で、話す内容を充実させることができた反面、話す練習の時間が不足していたことが課題となった。特に、言い間違いを修正したり、資料を見せるタイミングを考えたりする時間が不足していたため、発表本番では普段よりも緊張している様子も見られた。児童からは、「一人で練習する時間と仲間と練習する時間、両方ほしい」という発言が聞かれた。私は、この発言から、自分に必要な学び方を考えながら学習を進めようとする意識が育ってきていると感じた。

今、名古屋市が推進している『ナゴヤ学びのコンパス』では、「自分に合ったペースや方法で学ぶこと」や「多様な人と学び合うこと」、「夢中で探究すること」が重視されている。児童が、仲間と関わりながら試行錯誤し、話す内容を充実させ、より良い発表を目指していく姿から、「多様な人と学び合うこと」、「夢中で探究すること」については一定の成果を得たと考える。

今後は、児童が自分に合ったペースや方法で学べるようにするために、児童とともに、より良い学び方を模索していきたい。そして、児童自身の「もっとこうなりたい」「もっとこうしたい」という思いを見逃さず、その思いに寄り添いながら、実践を続けていきたい。

